

日本原子力学会標準委員会 リスク専門部会 PRA 品質確保分科会

第 13 回会合議事録

日時：2016 年 11 月 14 日（月）10:00～11:40

場所：関西電力 東京支社 12 号会議室

出席者：（敬称略）

委員：越塚主査（東大）、成宮副主査（関電）、糸井（東電）、岩谷候補（中電）、浦野候補（原電）、喜多候補（東電）、桐本（電中研）、倉本（NEL）、曾根田（日立 GE）、田中（MHI）、日高候補（TEPSYS）、藤井代理（東芝、小森）、村田（JANSI） 13 名出席

常時参加者：根岸（GNES）、野村候補（関電） 2 名出席

配布資料：

RK4SC13-1：人事について

RK4SC13-2：分科会所掌範囲の変更及び PRA 品質確保標準の改定について

RK4SC13-3：リスク活用にかかる標準の改定について(RKTC37-8)

RK4SC13-4：安全性向上分科会（仮称）の設置について (STC37-6)

RK4SC13-5：リスク情報活用標準（抜粋）

RK4SC13-6：リスク活用に必要な PRA の品質確保(2016 秋の大会 標準委員会セッション)

RK4SC13-7：標準の英訳について

RK4SC13-8：ASME JIWG 第 1 回会合報告

参考資料：

RK4SC13-参考 1：PRA 品質確保分科会 名簿

議事：

1. 定足数の確認、配布資料の確認

委員 10 名中 9 名が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが確認された。

2. 人事について (P8SC24-2)

委員の選任(4 名)及び常時参加者の登録(1 名)について承認された。また、委員の退任(4 名)及び常時参加者の解除(1 名)について報告があった。

3. 分科会所掌範囲の変更及び PRA 品質確保標準の改定について

成宮副主査より、**RK4SC13-2** から **RK4SC13-5** に基づき、分科会所掌の変更及び今後の標準改定作業に係る説明があり、リスク情報活用に関する実施基準の“**5.3.4 確率的な安全評価**”に関する事項を **PRA** 品質確保標準にどのようなかたちで反映するかを中心に議論した。今後の作業については、作業グループを作成して進めることとなり、分担については別途メールにて調整することとなった。主な議論は以下のとおり。

Q:システム安全専門部会との関連だが、一番シンプルにやるのは、**RIDM** の標準の引用規格にしてもらい、足りない部分を書いてもらうのがよいのではないか。

A:それが落としどころかと思っている。骨格の部分は **RIDM** 標準に書いてもらい、品質確保標準を引用規格とするのがよいかと思う。**RIDM** 標準から引用するとなると、品質確保標準はそれを受けられるようなかたちにする必要がある。

Q:リスク情報活用標準の **5.3.4** 節には品質に関する記載もあるが、意思決定にかかる記載もある。両方をこの分科会が所掌するわけではないのか。

A:二つの分科会で所掌を分けたのは、品質と **RIDM** それぞれの目でリスク情報活用標準の **5.3.4** 節を見て、それぞれに取り込むことを期待してのことである。例えば判定基準とかは品質の方でやるとしても **RIDM** でやるべきことは書かなくてはいけない。

C:**V&V** についての補足だが、品質マネジメントの方は **ISO:9001** との整合をとっておく必要があると考えている。モデリングの方は特に見る必要はないと思っており、やや紹介的なものである。

Q:従来の標準は **JEAC4111** を参考に作成しているが、計算工学会の標準を確認し、参照なり、標準への追記が必要ということか。

A:計算工学会の標準を確認しつつ、**JEAC4111** の **7.6** 節について **PRA** の **configuration control** の詳細を書くことが必要かもしれない。

Q:**PRA** でも **MAAP** 等の **SA** 解析コードを関連して使っており、そのコード自体はシミュレーションガイドラインの範疇かもしれないが、この標準でも触れてもいいのではないか。

A:**MAAP** 等はガイドラインに沿って実施することを想定しているが、不確定性が大きいものである。また、シミュレーションガイドは上位概念のガイドであるため、今後それに応じた下部規定が必要になると考えている。

Q:この品質確保標準で触れるべきか、個々の **PRA** 標準で触れるべきか。

A:個々の **PRA** 標準がよいのではないか。

C:現状、個々の標準では、“実証された解析コードを使う”程度の記載しかない。

Q:今後実務を担う **NRRC** のメンバーにもっと分科会に入っていただく必要は無いのか。実務と乖離しないか。

A:桐本委員が参加しているので問題ないとは思っている。もちろんメンバーを追加する分には構わない。

C:標準の改定作業及び英訳作業にあたり、作業チームを作成して、分担して進めるスタイルでいきたい。

Q:RIDM 標準の策定スケジュールと合わせて進めるのか。

A:互いに引用・参照が考えられるため、工程を合わせる必要がある。

Q:シビアアクシデントマネジメント(SAM)標準との連携はどうなっているのか。PRA に関連する項目がマークされているが、結論はどうか。

A:本分科会の結論としては、SAM 標準との連携はしない。RIDM 標準と同列にはないと考えている。

C:幹事については次回には決定することとしたい。作業メンバー分けについては、副主査からメールで連絡をし、調整する。

4. 共通用語定義標準の英訳について

成宮副主査より、資料 13-7 に基づき、共通用語定義標準の英訳作業について説明があった。主な議論は以下のとおり。

Q:用語の定義を英訳する際に、日本語を併記するか、左ページが英語、右ページが日本語という形にした方が役に立つのではないか。

A:その点は議論していないが、作成過程ではそのような形式をとると思う。一方、ASME に対しては必要ないと思う。

Q:PRA の目的に合わせたカテゴリ分けも関連してくるのではないか。

A:性能規定化に関してリスク専門部会等で議論しているが、カテゴリ化の話も挙がってはきている。部会で議論中であるので、また紹介する。

5. その他 (次回日程等)

次回分科会は、12月22日 9:30~11:30 で東大にて開催することとなった。